

**平成 30 年度
地域まちづくり活動助成金
活動成果概要**

平成 31 年 3 月
東大阪市 協働のまちづくり部
NPO・市民活動支援課

目次

『地域まちづくり活動助成金』の概要	1
選考方法・審査会委員	1
各交付事業の成果一覧	2-3
活動成果概要	4-57

『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

スタート支援部門	立ち上げて5年未満の団体が、活動基盤を整えたり、新たな事業を始めたりするのを支援する助成金。
事業チャレンジ部門	団体が、将来に亘って自立・継続して活動するための事業への助成金。
まちづくりファンド部門 (ハード事業)	市民によるまちづくり活動の活性化につながるハード整備事業への助成金。

○選考方法

スタート支援部門	書類と面接（10分程度）
それ以外の部門	書類と公開プレゼンテーション（20分程度のプレゼンテーション）

いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において採択団体や助成金額などを審査します。

○審査基準

- ・事業の公益性 ・事業の実現性 ・事業の創意工夫・先駆性
- ・事業の発展性 ・組織の健全性 ・他団体、企業、行政機関などとの協働性

平成30年度東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員

平成30年度の審査は、下記の審査委員により審査を行いました。

	氏名	選出団体及び役職
会長	吉田 忠彦	近畿大学経営学部教授
副会長	有田 典代	国際文化交流協会 事務局長
	田中 晃代	近畿大学総合社会学部准教授
	藤江 徹	あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）事務局長
	大西 洋子	協働のまちづくり部次長

各交付事業の成果一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ番号
1	スタート支援部門	地域資源わくわくプロジェクト実行委員会	地域資源わくわくプロジェクト	4
2	スタート支援部門	ぼくらのひらおか まちあるき会	地域活性化に向けた枚岡の宝さがし活動事業	6
3	事業チャレンジ部門	「ひょうたん山夢街道まつり」実行委員会	「ひょうたん山夢街道まつり」開催事業	8
4	事業チャレンジ部門	工場を記録する会	東大阪モノづくりミュージアムの常時展示	10
5	事業チャレンジ部門	特定非営利活動法人NPOサポート東大阪	ささえ隊 東大阪NPO活動の今、これから「東大阪NPO等市民活動ハンドブック作成プロジェクト」	12
6	まちづくりファンド部門	今米緑地保存会	「美杜里乃舎」活動空間再生事業	14
7	スタート支援部門	子ども料理教室Melty	子ども料理教室Melty	16
8	スタート支援部門	子育て情報発信 ふらっとホーム	まちカフェ「ふらっとホーム」事業	18
9	スタート支援部門	東大阪市「集いの場の会」	1.サロン運営事業および2.イベント「『集いの場』の集い2018」開催事業	20
10	スタート支援部門	おやじかふえトライ	おやじかふえトライ	22
11	スタート支援部門	共生型コミュニティ実行委員会	共生型コミュニティづくり活動	24
12	スタート支援部門	憩の集“やすらぎ”	高齢者の“やすらぎ”の場づくり事業	26
13	事業チャレンジ部門	ささえ愛、わかば	高齢者ふれあいサロンと介護・認知症予防推進事業・周辺地域交流事業	28
14	事業チャレンジ部門	特定非営利活動法人生きがい事業団かどや	みんなのたまり場「かどやのおしゃべりサロン」	30

各交付事業の成果一覧

	申請区分	団体名	申請事業名	ページ 番号
15	事業 チャレンジ 部門	こうのいけ憩いの家	こうのいけ憩いの家	32
16	スタート 支援部門	K-mop	ふれあい早朝健康ダンス	34
17	スタート 支援部門	こども英語推進委員会	みんなで歌おう！ラグビーワールドカップ テーマ曲「World in Union」	36
18	事業 チャレンジ 部門	東大阪中・高校生演劇ワーク ショップ実行委員会	2018年東大阪中・高校生演劇ワーク ショップ	38
19	事業 チャレンジ 部門	小阪中校区まつり実行委員会	小阪中校区まつり	40
20	まちづくり ファンド 部門	ながせ出張所	空き家を活用した地域や学生が高齢 者を支える見守り事業	42
21	スタート 支援部門	ポイ捨てボクメツ作戦実行委員 会	ポイ捨てボクメツプロジェクト	44
22	スタート 支援部門	災害時のトイレ・避難所問題等 を考える会	HUG(避難所運営体験ゲーム)を活用 した減災に強い地域づくり	46
23	スタート 支援部門	建築研究会あきばこ家	長屋を利用した交流拠点の創出	48
24	事業 チャレンジ 部門	梶無神社ふれあいやさい市実 行委員会	梶無神社ふれあいやさい市開催事業	50
25	事業 チャレンジ 部門	NEW鴻池ファミリーフェスティバ ル実行委員会	NEW鴻池ファミリーフェスティバル	52
25	まちづくり ファンド 部門	東大阪市金岡商店会	「かなちゃんコミュニティハウス」整備事 業	54
26	事業 チャレンジ 部門	東大阪フォレストクラブ	森林保全整備活動と森林整備体験講 座	56

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域資源わくわくプロジェクト		
団体名	地域資源わくわくプロジェクト実行委員会		
助成区分	スタート支援部門助成金	助成金額	168,000 円

事業の目的・内容	目的	時代とともに失われがちな地域(郷土)の興味深い場所、景観、伝承を、より多くの人に楽しく伝え、大人から子供へ世代を超えて伝えてもらうきっかけ作りをしたい。 一歩踏み込んで、地域の特産、伝承や食文化を組み合わせで紹介できるコースを開発し、楽しく、わかりやすい小旅行のような参加体験を通じ、地域への愛着を深めて頂く為の基盤となる活動を目指してプロジェクトを立ち上げました。
	内容	身近な地域に点在する興味深い場所、景観、伝承、食文化などを組合せた①創作コースを開発する。②従来のまち歩きと異なった小旅行型の「参加体験」となる様、実施企画書を作成する。③企画書の実施可否を検証のため、試験試行を経て本番用イベント実施書を作成する。④実施に向けた諸団体へ協賛依頼する。⑤本番実施と結果の評価、反省を行い、次回へ継承・改善を行います。

活動実績	<p>1、平成30年1月～5月</p> <p>(1)プロジェクト推進会議(原則:1回/月開催)</p> <p>(2)年間のイベント開催を1回から2回へアップする為にメンバーにて検討を実施。</p> <p>(3)年間の前期開催は、既にルート開発した中から選抜して実施する事とした。</p> <p>(4)第4回実施テーマ:リターンズ「辻子谷復元水車と石仏、郷土料理を食べる」</p> <p>(5)H30-5/19(土)イベント実施。</p> <p>(6)参加者は、子ども9名と大人14名参加(スタッフ12名)</p> <p>(7)新規参加と一部リピーターでの開催でしたが、評価は好評でした。</p> <p>2、平成30年6月～12月</p> <p>(1)プロジェクト推進会議(原則:1回/月、必要に応じて随時開催)</p> <p>(2)年間の後期開催2回目の新規ルート開発を実施。</p> <p>(3)新規ルートの試行を数回繰り返す。</p> <p>(4)ルートの修正を加え、実施企画を決定。</p> <p>(5)第5回実施テーマ:「知らなかった東大阪」のルーツを探す! 親子で体験! 枚岡の伸線工場と針金アートに挑戦!</p> <p>3、年間2回のイベント実施</p> <p>(1)前期・第1回目実施:平成30-5/19(土)、後期・第2回目実施:H30-11/24(土)</p> <p>(2)イベント終了時に参加者全員にアンケートを実施する。</p> <p>(3)イベント終了後の12月18日にメンバーにて本イベントに対する評価と反省を実施する。</p>
------	---

目 標	<申請時> 1、体験型地域資源探索ファミリーウォーキングのイベントを年間2回実施。 2、次年度用イベントのルート開発と試行。	<事業実施後> 1、年間2回のイベント開催出来、地域の多くの方に参加頂き、好評を頂いた。 2、多くの皆様方から次回開催を要望された。
事業の成果・効果	1、東大阪市地域まちづくり活動助成金を頂き、長年の目標であった年間2回のイベントを開催する事が、本年度達成出来ました。 2、参加者は、第4回目イベント:子ども9名と大人が14名で合計23名でした。(スタッフ12名) 3、第5回目イベント:子ども15名と大人が25名で合計40名でした。(スタッフ7名) 4、新規に開発した第5回目のルートは、①枚岡駅集合→②枚岡神社→③姥ヶ池→④椋ヶ根橋→⑤豊浦谷溪谷→⑥豊浦橋(神津嶽説明)→⑦野尻工業(伸線見学1)→⑧枚岡公園→⑨妙徳寺→⑩日本製線ミュージアム見学・実演(伸線見学2)→⑪針金アートづくり(東山会館)→⑫解散 5、本イベントでは近隣5団体から協力を頂き、地域市民の絆を更に強く出来ました。	
今後の事業展開	1、第4回・5回目のイベント開催で、参加者より早期に次開催の要望が多数ありました。 2、新規に開発するルートでは、現在のA地域中心の考え方から一歩進めてB地域、C・D……へと広げて、東大阪市全域を視野に入れた取組へステップアップ致します。 3、当面は、メンバーにて他地域についての情報入手及び現地調査を進めてまいります。 4、併せて、東大阪の文化・歴史に精通されておられる講師による勉強会の開催を実施します。 5、更に、プロジェクトメンバーの増員に向けて募集活動を進めてまいります。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



第5回イベント集合写真
平成30年11月24日(土)



第4回イベント集合写真
平成30年5月19日(土)

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域活性化に向けた枚岡の宝さがし活動事業		
団体名	ぼくらのひらおか まちあるき会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	198,000 円

事業の目的・内容	目的	昨年度は枚岡地域にある魅力資源を収集し魅力カード集の制作及び大マップを作成、その成果をワークショップにて地域へ展示した。結果、枚岡地域は自然・文化・歴史の魅力が多く点在するが多くが魅力資源として広く周知、それらが連携していないことが判明。今年度は収集した魅力資源から、まちあるきマップを制作、配布を行い枚岡地域の活性化・地域愛着度の向上を目的とする。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪産業大学デザイン工学部建築環境デザイン学科川口研究室との協働による魅力資源の分析およびコースの提案 ・収集した魅力資源の再調査および住民へのヒアリング ・魅力資源の撮影、コース立案 ・マップ制作と配布 ・マップを用いたまちあるきイベントの実施

活動実績	<p>【5～6月】大阪産業大学の学生と協働しフィールドワークを実施、地域資源の再分析を行い、まちあるきの7つのコース提案を行った。</p> <p>【7～10月】</p> <p>①マップ制作へ向けての企画・デザイン会議。現地調査と写真の撮影、住民ヒアリングを行った。</p> <p>②10/28開催の「造園学会関西支部発表会」にて大阪産業大学と協働した分析とコース提案の模様についてポスター発表を行った。</p> <p>【11月】</p> <p>①まちあるきマップの完成。なお完成した模様は東大阪経済新聞社に取材して頂き記事およびwebニュースへ記載された（facebook72 いいね獲得）。</p> <p>②11/18開催「東大阪グリーンフェスタ」で大判サイズのマップ展示、配布活動を行った。また同日開催の「ゆるきゃらGP」にてマップを配布した。</p> <p>【12月】12/9開催「第15回川中邸美杜里乃屋愉会」でマップの展示と配布を行った。</p> <p>【11～2月】掲載商店、枚岡神社、商店街等25箇所へ配布活動を行った。</p>
------	---

目 標	<申請時> まちあるきマップを制作、枚岡へ訪れる交流人口を増やし、地域への収益性と賑わいを還元する。 さらに地域住民自らが枚岡の魅力を発見することにより、次年度以降マップのアップデートを行う。	<事業実施後> 新たな魅力資源の収集、マップの再製作を行い様々なニーズに対応させることでさらなる交流人口を増やし、地域への収益性と賑わいを還元する。 また地域住民がマップを使いこなし、内外へ広められる工夫を考える。
事業の成果・効果	今年度の事業としては、目的であるまちあるきマップの制作を行うことができたことが大きな進歩である。まちあるきマップの制作に向けて大阪産業大学学生と協働したことや、現地調査にて地元住民との交流が図れたことからマップユーザーのニーズ調査と現地住民の意向なども多く取り入れたマップの制作へつながったといえる。 また広報面では、各イベントにてマップの配布・展示活動を行ったほか、マップに我々団体の facebookpageQR コードや記載した店舗・施設の情報 QR コードに記載することでマップ自体が広告媒体としての効果を持たせることが出来た。また実際に生駒山にハイキングへ行く道中にマップを使用するなどの意見が得られたことからマップの有用性が明らかとなった。	
今後の事業展開	今年度の制作したマップでは記載できない程、枚岡地域には未だ、魅力資源が存在している。これらの魅力資源をどのようなテーマを持たせ、どのようなコースをつくりマップに反映させるかが課題となった。今回のマップに記載したものは「歴史・レトロ・オシャレ」というテーマを持たせたが、実際のユーザーの意見を取り入れるべく、マップを使ったまちあるきイベントを現在計画している。その結果を踏まえ今後は新たなマップの作成、地域住民とのマップを使ったまちあるきイベントの開催を行うことでさらなる地域活性、魅力資源の内外発信へつなげていく。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「ひょうたん山夢街道まつり」開催事業		
団体名	「ひょうたん山夢街道まつり」実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	200,000 円

事業の目的・内容	目的	生駒山麓に位置する当地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力を広く発信し、興味と関心の輪を広げ、郷土への愛着と誇りを育む。また、地域の賑わいの創出、人々の交流の促進を図る。
	内容	この地域を南北に貫き、古来より、京の宮人や戦国武将が多数往来し、歴史に彩られた東高野街道を舞台に、市民参加による「時代行列パレード」をメインとしたイベントを開催し、地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力を広く発信する。

活動実績	<p>① 「ひょうたん山夢街道まつり通信」の発刊・情報発信 (第5号：4月15日、第6号：10月15日 B地域自治会配布)</p> <p>② 「市民ふれあい祭り」パレードに参加、取り組みアピール(5月13日)</p> <p>③ 「第4回ひょうたん山夢街道歴史トーク」 (8月26日、四条リージョンセンターにて開催) 【第一部】基調講演「河内の風土と芸能文化の流れ」 【第二部】郷土芸能「為丸節 正調河内音頭」公演 ・写真展「セピア色の郷土」併設(2階ミニギャラリー) (入場者)約90人</p> <p>④ 「第4回ひょうたん山夢街道まつり」(11月4日開催) 旭町子育て支援センターから四条リージョンセンターまでの間約1Kmを東高野街道の歴史を振り返り、参加者手作りの装束で武将や宮人に扮し、「時代行列パレード」を実施。併せて、駅前広場で、地元グループの参加による大道芸や河内音頭などのイベントを開催。 (パレード・イベント参加者 約100人)</p>
------	--

目 標	<申請時> 時代行列パレード、イベント 参加者 : 100名	<事業実施後> 大商大ボランティアサークル、経法大ゼミ生の若い人達の参加協力が得られた。: 100名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>歴史シンポジウムの開催並びに時代行列パレード等市民参加によるイベントの開催により、当地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力の再発見、興味と関心の輪を広げることができた。</p> <p>また、地元自治会をはじめ商店街、福祉関係団体の支援や高校、大学生など若い人達の参画により、地域の賑わいづくり、コミュニティの活性化にも寄与できた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも徐々に認識してもらえるようになってきたが、継続した取り組みとするために、引き続き地元関係団体や商店街への働きかけを行うとともに、取組みに賛同、協力いただける人材の発掘に努める。また、イベント開催に向けては、高校・大学との連携を更に密にし、若い人達の参画の輪を広げていく。 ・将来ビジョンとして、商店街開催事業との共同開催などの手法も視野に入れ検討していく。 	



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪モノづくりミュージアムの常時展示		
団体名	工場を記録する会		
助成区分	事業チャレンジ 部門	助成金額	700,000 円

事業の目的・内容	目的	5年間の記録活動と3回の展示会をつうじて、モノづくりのまち東大阪市には歴史をふまえた展示を行う恒常的な施設が必要であることを痛感した。東大阪モノづくりの活力と魅力を発信する常設展示場の開設をめざした。
	内容	年度当初に商業施設フレスポ東大阪が場所を提供していただき「常時展示」という名称で開設に向けての準備を進めた。横17m高さ1.7mの壁面展示に備えて備品設計・発注、展示パネル制作・据付を行って12月9日に開設した。幅4m奥行き20mの床面でのアクリルケース陳列4台は予算の制約から、フレームの無償提供と手づくりで1台だけ設置した。

活動実績	① フレスポ東大阪にてモノづくりフェスタ 8月26日 協力企業12社
	② 大阪府立城東工科高校城工房（学生ボランティアシステム）との連携 8月・万能調理器具ACTの実演販売・ペットボトル工作展示 12月・同上・ワークショップちらし制作
	③ 東大阪市立産業技術支援センターでの新規展示制作 6月～8月
	④ 東大阪モノづくりミュージアム開設プロジェクト 12月9日 ・式典 市長、府議2名、市議7名、行政9名、企業8社、一般20名 ・ワークショップ 協力企業4社、参加者32名
	⑤ 展示説明会と工作教室 参加人数 1月19日 説明会7名 工作教室（立体万華鏡）9名 2月16日 説明会2名 工作教室（河内木綿のコースターづくり）9名 3月16日 説明会 工作教室（ワイヤアート実習）

目 標	<p><申請時></p> <p>8月26日 参加者 50人</p> <p>2019年1~3月 見学者 1,500人 (商業施設の見学者を読み誤った)</p>	<p><事業実施後></p> <p>8月26日 参加者 85人</p> <p>12月9日 オープニング 90人</p> <p>1~3月 イベント 18人。説明会 9人。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>常時展示を実現した。オープニングの翌月より第3土曜の午後に展示説明会と工作教室を開催した。PRは教育委員会、協働のまちづくり部の協力を得て小学校、自治会に行うことができた。工作教室は東大阪地域活性化支援機構、東大阪ブランド推進機構の企業により実施した。</p> <p>この事業の自立継続には「企画・人材・資金」の3要件が不可決となる。</p> <p>①企画は歴史をベースとしていかにして集客力のある事業を提案できるか。</p> <p>②人材は、支援者・ボランティアを増やす努力とともに、若手人材の育成。</p> <p>③資金は賛助金協力で目標を上回った。個人25名・企業18社 567,500円。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>2018年度に着手できなかったアクリルケースでの実物陳列を実現することが第一目標である。第二に展示の充実である。既存の内容充実と更新（補助資料作成・QRコードによる追加補足）を行い、小学生による調査と展示パネル制作を具体化するプログラムを作る。第三はフレスポ周辺の地域と連携することである。4月に企画展（地元の長寿企業）を実現するなかで、楠根リージョンセンター・楠根小学校・城東工科高校と連携する。</p> <p>最後に収入源を確保することが第四目標となる。2018年度は賛助金であったが、2019年度以降は賛助会員を新設して年会費で収入を確保する。</p> <p>フレスポ東大阪と結んだ協定書にある有効期限2025年6月を見据えて、行政によるミュージアム運営について先行事例の調査を実施する。</p>	



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ささえ隊 東大阪NPO活動の今、これから 「東大阪NPO等市民活動研究会・見学会開催プロジェクト」		
団体名	特定非営利活動法人 NPOサポート東大阪		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	350,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	本市には、手元に置いて実際に役立つような市民活動のための手引書がない。大学・企業・行政等との連携の具体的な手法にも言及した市民目線でまとめられたハンドブックが必須である。本年は、地域の市民活動団体が、積極的に交流し研究会・見学会を開催しながらハンドブックの内容を検討していく。
	内容	NPO等市民活動団体のメンバーや市民活動に関心のある市民、企業・自治会・行政等の関係者などが、交互にまちづくりの歩みや市民活動の取り組みにかかる研究会・見学会を開催する。その内容を集約することにより、市民活動にとって参考となる事例や意見をまとめ、今後、手元に置いて実際に役立つような市民活動のための手引書の作成をめざす。

活 動 実 績	<p>市民が集まりやすいイコーラム・文化の駅・トライスペース東大阪などを活用して東大阪のコミュニティ活動の経過や今後のNPO活動の進め方について、研究会を5回開催した。</p> <p>また、8月から隔月毎に近大前と布施商店街・きらりっこ・はたおり工房などの拠点に赴いて各種の活動を体験しつつ、現状の課題、今後のあり方について意見を交わし、具体的な方策を模索した。</p> <p>各回とも市民・研究者・議員・行政職員など多彩なメンバーの参加を得て、様々な課題について率直な意見交換を行なった。10名～30名近い参加を得て、予定した2時間から4時間の時間を越えて議論が盛り上がったこともしばしばあった。</p> <p style="text-align: center;">＜研究会・見学会の交互開催＞</p> <p>7/21 研究会「東大阪市のまちづくりの歩みと、市民活動の現状」</p> <p>8/25 見学会「商店街と地域との関わり方(長瀬大学通り・布施土曜夜市)」</p> <p>9/15 研究会「市制50年を迎えてまちびらき(泉北ニュータウン)の事例」</p> <p>10/20 見学会「これからの子育てに必要なこととは?(きらりっこ)」</p> <p>11/19 研究会「まちづくりミーティング(コミュニケーションブリッジと)」</p> <p>12/1 研究会「協働はひろがり、地域自治はふかまる(NPO政策研)」</p> <p>1/19 見学会「河内木綿(はたおり工房)と石切参道商店街」</p> <p>2019年3月2日(土) 午後2時～6時</p> <p>基調講演「自治のしくみと実践(中川幾郎氏)」・意見交換会</p>
------------------	---

目 標	<p><申請時></p> <p>①研究会の開催 5回 ②見学会の開催 4回 研究会10名から30名程度 見学会20名から30名程度</p>	<p><事業実施後></p> <p>①研究会の開催 5回 ②見学会の開催 3回 研究会10名から20名程度 見学会20名から30名程度 最終回中川幾郎氏講演・研究会30名</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>東大阪市のまちづくりのあゆみを振り返りながら、商店街の現状や子育ての現場を見学し、関係者に実情をお聴きした。また、NPO等市民活動団体の実績や課題をお聴きし、今どのようなしくみや支援が必要かについても議論を重ねた。東大阪市では自治会等の加入率も比較的高く、コミュニティ活動も従来から活発であった。NPO等市民活動団体も福祉系を中心として数多く存在し、かなりの実績を重ねておられる。</p> <p>リージョンセンターを始め地域活動の場も、民間を含めて相当な数にのぼる。ただ、少子・高齢社会の到来に対応すべく、自治のしくみと実践は遅々として進んでいない。NPO等市民活動団体だけでなく、自治会等市民活動そのものを支援する必要性を痛感するに至り、更なる連携強化が求められている。リージョン構想構築時の貴重な資料を多数発見できたことも1つの成果であり、今後の再考に当り多いに役立つものと期待している。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>人々がふれあいながら社会参加し、地域で支え合って歩むことのできる東大阪をめざす。今後も、定期的な研究会・見学会を積み重ねながら、手元に置いて実際に役立つような市民活動のためのハンドブック作成を、公民協働で進める。自治のしくみの強化と実践に向けて、NPO等市民活動団体だけでなく、自治会等市民活動そのものを支援するため、コミュニティ・シンクタンクのような構想も視野に入れて、市民・大学・企業・行政等との更なる連携強化を図る。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「美杜里乃舎」活動空間再生事業		
団体名	今米緑地保全会		
助成区分	ファンド部門	助成金額	5,000,000 円

事業の目的・内容	目的	地域の誇れる場所として、様々な勉強会や資源を活かした催し、見学会などを行っているが、安全に活用・活動が出来るよう改修を行った。
	内容	老朽化により雨漏りが激しくなった表玄関の庇・柱の沈下・土間などの改修を行った。 工事中に見学会を行い、古民家の魅力を伝える為、経過・技術の説明や鉋削りのワークショップを催す。

活動実績	<p>(11月) 庇・垂木筋違・板壁土壁解体・瓦降し・柱埋木・柱根継ぎ土台替工事特別見学会 (根継ぎ・竹小舞など技術説明)</p> <p>(12月) 第16回「美杜里乃舎」愉会 Jazz 講談・ドングリ拾い他 壁下地竹小舞・荒壁・白壁削り・垂木加工・桁垂木調整 添え垂木取り付</p> <p>(1月) 腰板壁取り付・庇裏板張り・屋根下地・漆喰塗</p> <p>(2月) 修復工事見学会 (工事経過説明・古建築の魅力・鉋削り体験) ガルバリウム鋼板貼・屋根瓦葺き・外溝下地・透水管埋設 外溝仕上げ・三和土・美装工事</p>
------	--

目 標	<申請時> 歴史があり・自然豊かなこの地を、多くの人々が集い活用できる地域の誇れる場として次世代に継承していきたい。	<事業実施後> 歴史・自然に加え古建築の魅力・伝統建築技術の大切さも伝えていきたい。この場所だから出来る多くの事を、地域の人々と共に守って行きたい。
事 業 の 成 果 ・ 効 果	建物の老朽化で、人が集まる場所として不安を感じていたが、修復により地域交流の拠点として利活用できる。 伝統建築技術は、多少のひずみ・腐食があっても埋木・根継ぎ等で解決し、新しい部材も古色塗りで解決できるすばらしさ、その技術を集結した木造古建築の魅力を改めて身近に感じた。	
今 後 の 事 業 展 開	他の建物も測量・耐久性など調査し部分的な改修を行い、安全性を確保しながら、より多くの人々が利活用できる文化施設にしていきたい。 歴史的環境と自然的環境が一体化するこの場所の魅力に加え、古建築の魅力も伝え、様々な団体と連携し市民の貴重な財産として次世代に継承していきたい。 財団など法人化に向けての理解者・資金を確保する。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	子ども料理教室 Melty		
団体名	子ども料理教室 Melty		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	50,000 円

事業の目的・内容	目的	子供を対象に食育と豊かな感性を磨く場を目指し「子ども料理教室 Melty」を開講。お料理をし、自分で作ったお料理をおいしく食べることで子供達が自己肯定力や自信を得て、精神面での充実と成長に繋げていくことを当教室の目的としている。
	内容	料理を通じて食や社会の一端を伝え、伝統・マナーにも触れる。下ごしらえから調理・完成まで子供自身がやりきり、その成果である料理を食べる事、家族においしく食べてもらうことで達成感を醸成する。

活動実績	①2018年8月7日(火)「夏休みクッキング#1」 16組36名(大人13名、小人23名) ※スタッフ親子3組を含む
	②2018年8月27日(月)「夏休みクッキング#2」 13組36名(大人13名、小人23名) ※スタッフ親子3組を含む
	③2019年1月5日(土)「冬休みクッキー教室」 10組20名(大人8名、小人12名) ※スタッフ親子1組を含む
	④2019年3月2日(土)「親子料理教室」 7組19名(大人7名、小人14名) ※スタッフ親子2組を含む
	いずれも講師は1名。 場所は若江岩田駅前・くすのきプラザ5F(料理教室)にて開催

目 標	<申請時> 目標の参加人数：のべ 100 人。	<事業実施後> 実際の参加人数：のべ 111 名 (スタッフの親子を含む)
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期休みの 1 イベントとして、子供がいるご家庭の役に立った。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 親子コミュニケーションや家族の娯楽の一助となった ● 子供たちに調理の楽しさを伝えられた ● 子供たちに調理道具の使い方や注意事項を伝えることができた ● 食事や栄養の大切さ、旬の食材について考える機会になった ● 子供や保護者を笑顔にすることができた ● アレルギー体質のお子様向けも開講し、大変喜んでもらえた 	
今 後 の 事 業 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的に開催したい ● 保護者は穏やかにゆったり参加したいという気持ちがあるので、講師の目が行き届くようにするべく、内容の見直しと 1 回ごとの定員の再検討を行う。 (1 回あたりの定員の減少と受講料アップの問題が生じるため熟考。) 	



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	まちカフェ「ぷらっとホーム」事業		
団体名	子育て情報発信 ぷらっとホーム		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	137,000 円

事業の目的・内容	目的	地域事業の際、子育てに役立つ情報をポスターやチラシで発信し、親子で参加できる企画を催し、交流する。また定期的な街角カフェやこども食堂を開催し、誰もが気軽に立ち寄れる居場所の運営を行う。
	内容	定期的なコミュニティカフェやこども食堂を開催し、誰もが気軽に集える場づくりを行う。また、リージョンセンターでのカフェ運営や地域行事への出店を行うとともに子育てなどに役立つパンフ、チラシ等を提供し、広く情報発信を行う。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂の取り組み（古民家 唐津邸にて実施） <ul style="list-style-type: none"> 6月17日（日）→チキンライス等 48人（大人28、子ども20人）参加 10月27日（土）→カレーライス等 57人（大人34、子ども23人）参加 1月20日（日）→餅つき大会 60人（大人37、子ども23人）参加 ※8月は諸事情により中止 JAグリーン大阪の協力で、新鮮野菜の提供など受ける。 ・中鴻池リージョンセンターでのコミュニティカフェ運営 <ul style="list-style-type: none"> 7月1日（日） すぐかぜコンサートでのカフェ運営（約100杯） 2月10日（日） グリーンフェスタでのカフェ運営（115杯） ・地域行事での出店 <ul style="list-style-type: none"> 11月18日（日）盾津中学校における「盾津ふれあいフェスティバル」への出店→団子汁の提供（168杯分） ・毎月第4水曜日の午前 定例まちカフェ（唐津邸にて） ・グリーンバル（広報誌）への記事掲載「子育てのヒント」年3回
-------------	---

目標	<申請時> 子ども食堂に毎回 30 名以上の参加。まちカフェの定例化	<事業実施後> 子ども食堂へは毎回 50 名以上参加 まちカフェは第 4 水曜で毎月開催
事業の成果・効果	<p>リージョンセンターでのカフェや地域行事の出店などで、地域における「ぷらっとホーム」の認知率は確実にあがってきた。また、子ども食堂については、同じ場所を活用して、他団体が毎月子ども食堂を実施していたりもするため、唐津邸＝子ども食堂と認識され、子どもだけでも安心して集える場になりつつある。</p> <p>子ども食堂については、毎回、ボランティアスタッフの確保に苦慮してきたが、活動での認知がすすむにともない、共感する地域住民の協力も得られやすくなってきた。</p>	
今後の事業展開	<p>食育、地産地消、孤食を防ぐという観点を持ち、JAグリーン大阪との協力関係はとてありがたいが、秋の台風被害の影響で、野菜類が不作だった時期は食材確保に苦労した。経済的にはまだまだ脆弱なので、寄付金集めや協力農家などとのネットワークを強化していくのが課題。</p> <p>他の子ども食堂実施団体とも協力しあって、運営のノウハウを共有しながら、Facebook やその他 SNS での情報発信にも力を注いでいく。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	1.「集いの場」運営事業 2.「『集いの場』の集い2018」開催事業		
団体名	東大阪市「集いの場の会」		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	112,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>1.『集いの場』を運営するとともに、</p> <p>2.『集いの場』関係者らが一堂に会するイベントを開催、情報・意見交換を行うことで、利用者の増加や充実・発展、さらなる『集いの場』の創設に寄与する。</p> <p style="text-align: center;">[「集いの場」をつくる・つづける・つなげる]</p>
	内容	<p>1.「サロン喫茶去(きっさこ)」を運営（毎月1回、できれば年度後半から月2回実施）</p> <p>2. イベント「『集いの場』の集い2018」を開催（内容は、講演会、情報および意見交換会）</p>

活動実績	<p><「定例会」の開催></p> <p>4/16・6/18・8/20・10/15・12/17・2/18、計6回開催、「サロン」「イベント」のうちあわせ、「サロン」に関する各種情報・意見交換を行った。</p>
	<p><「サロン喫茶去」の運営></p> <p>毎月第2木曜日 10:00～12:00、西石切町にあるNPO法人・事務所にて開催（8月は西石切町自治会老人クラブ集会所にて）。加えて、1月からは、第4木曜日 13:30～15:30をスタートさせた。参加者数は、2月までの14回で、のべ285人(毎回約20人)であった。</p>
	<p><イベント「『集いの場』の集い2018」の開催></p> <p>12/2（日）東体育館にて、向井容子氏を招き講演会「健康寿命を延ばす食生活」、参加者全員による情報・意見交換会を開催した。参加者は、一般46人、関係者・会員22人、計68人、他地域からの参加もあった。</p>
	<p><「石切地区サロン交流会」への参加></p> <p>石切地区にある「サロン」10数か所が集う「交流会（8/19・2/17、計2回開催）」に参加、各種情報・意見交換を行った。</p>

目 標	<p><申請時></p> <p>1. 毎回 20 人程度の参加</p> <p>2. 関係者および一般地域住民・80 人の参加（会員らを含む）</p>	<p><事業実施後></p> <p>1. 毎回約 20 人が参加</p> <p>2. 一般住民 46 人、関係者および会員 22 人、計 68 人が参加</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>会員・関係者だけでなく『集いの場』運営に携わっておられる方・意欲をお持ちの方、地縁団体や行政職員、一般地域住民など多くの皆さんが参加・参画くださり、活発な情報・意見交換を行うことができた。</p> <p>1. 「サロン」… 利用者の中から担い手になってくださる方も生まれ、2 月からは、念願だった月 2 回開催が可能になった。</p> <p>2. 「イベント」… A リージョンだけでなく、大蓮・岩田・花園・瓢箪山からの参加者もあり、市内全域への広がりを実感できた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>2 か月に一度の「定例会」開催の継続とともに、来年度も「サロン」運営および「イベント」開催を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サロン」は月 2 回開催を継続していく。 ・「イベント」については、市内全域の「集いの場・居場所」に呼びかけ、可能であれば共催の形式で開催したい。 <p>また、「石切地区サロン交流会」への関与も積極的に継続していく。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



↑ 2/14 「サロン喫茶去」
「映写会」の様子



↑ 12/2 「『集いの場の集い』2018」
グループでの情報・意見交換の様子

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	おやじかふえトライ		
団体名	おやじかふえトライ		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	160,000円

事業の目的・内容	目的	男性高齢者は社会との交流がなくなった為に認知症や病気になる人が多く「閉じこもり」が大きな社会問題となっている。 この社会問題を解決するため男性高齢者（女性も可）が参加しやすい集いの場を提供する。
	内容	高齢者を地域で支えあえる居場所を創る。今、高齢者の閉じこもりが大きな課題となっている。特に男性高齢者が深刻である。そこで、男性（女性可）が気軽に参加でき楽しくすごせる場を提供し、地域の活性化を図る。

活動実績	第1回	7月13日（金）	参加者26名	スタッフ	6名
			単体体操実施		
	第2回	8月10日（金）	参加者19名	スタッフ	6名
	第3回	9月14日（金）	参加者21名	スタッフ	6名
	第4回	10月12日（金）	参加者26名	スタッフ	7名
	第5回	11月9日（金）	参加者19名	スタッフ	7名
			紙飛行機大会		
	第6回	12月14日（金）	参加者25名	スタッフ	7名
		ダーツ体験			
第7回	2月8日（金）	参加者29名	スタッフ	7名	
		音楽と紙飛行機			
第8回	3月8日（金）	講演会「生活習慣病と食生活」予定			
	4月～6月	開設準備及び会議	7月～	かふえ終了後会議を実施	

目 標	<申請時> 8回×30名＝240名	<事業実施後> 7回 165名
事業の成果・効果	事業の成果としては、7回までの目標達成率は平均78.6%になります。月ごとでは、低くて2回と5回の63%、高かったのは7回の97%です。人数はまだ少ないがリピーターの参加もあります。また、「閉じこもり」であった高齢者が、この会の参加を契機に、外出機会が増えたと話される男性高齢者もおられます。当初、ポスターを作成していたが、12月と今回は、回覧用に作成し自治会の協力を得て配布しました。まだまだ高齢者の居場所づくりとしての第1歩を踏み出したばかりです。スタッフも6名で始めましたが、1名増えて7名になりました。参加者だけでなく、スタッフも高齢者の活動の場として、増えてくれればと考えます。	
今後の事業展開	今後の事業展開として、地域での周知が大切だと考えます。ときどきイベントなどを開催して参加者を増やし、その中でスタッフとして活動する方が出てくるように工夫したいと考えています。例としては、コーヒーの淹れ方の指南、カフェの体験などを通じて参加を促し、また将来的には、おやじかふえトライの出前開催などを企画し、遠くて参加できない高齢者にも参加する機会を増やしていければと考えています。	



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	共生型コミュニティづくり活動		
団体名	共生型コミュニティ実行委員会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	100,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	様々な世代間の交流の場があることで、それぞれの世代間での困りごとを共有でき、できる範囲で協力し合うことで、地域で様々な問題が解決できるような、コミュニティをつくっていくことを目的とする。
	内容	子ども食堂の活動を通して、高齢者と子供やその親世代が集える場所をつくり、地域で世代それぞれの問題を解決できるような、世代を超えたコミュニティをつくっていく。

活 動 実 績	4月26日	定例活動
	5月24日	定例活動
	6月28日	定例活動
	7月26日	定例活動
	8月23日	定例活動
	9月27日	定例活動
	10月25日	定例活動
	11月22日	定例活動
	1月24日	定例活動
	2月28日	定例活動
	3月28日	定例活動

目 標	<申請時> 子ども食堂：360人（30人×12回） 参加者の年齢層：高齢者世代を3割まで引き上げ	<事業実施後> 子ども食堂：275人（平均25人×11回） 参加者の年齢層：高齢者世代1.5割
事業の成果・効果	<p> 保育園児を高齢者のかたがみながら料理をすることで、高齢者の方の楽しみややりがいにつながってる。また子供たちは色々な料理や調理器具の使い方を教えてもらい料理に興味をもったり、家でお母さんの手伝いをするきっかけにもなっている。お母さんたちはいつも仕事をしてゆっくりご飯を食べられなかったり、子供たちと一緒に料理する機会ができないなか、他のお母さんと話しながら、子供たちとゆっくり関わられて喜ばれている。 料理を通して世代間のつながりができているように思われる。 </p>	
今後の事業展開	<p> 月1回ではなくせめて週に1回このような異世代のかたが集まれる場所ができ、また日中も立ち寄れる場所となるような事業につながっていくことを目指している。 </p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	高齢者の“やすらぎ”の場づくり事業		
団体名	憩の集“やすらぎ”		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	143,000 円

事業の目的・内容	目的	高齢化が進み、又核家族化による高齢者世帯・独居老人世帯が増加した。地域で高齢者を支える福祉活動の一環として、高齢者に”交流の場“を提供して”地域との絆づくり“を図ることが目的。
	内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者が気軽に参加し楽しむ場を提供。 2. 世帯間の交流を図る。 3. 健康づくりに関する講座・情報を提供。 4. 防犯・防災に関する講座・情報を提供。 5. 高齢者の閉じこもり防止と生き甲斐づくりを図る。

活動実績	4月	健康講座 社会福祉法人由寿会・理事長/医師 由井直子
	6月	体験講演 南極観測隊の報道員 NHK大阪放送局 藤田浩之
	8月	そうめん流し大会 社会福祉協議会 大阪商業大学生
	10月	「地震と防災」講座 大阪ガス(株) 松本忠雄
	12月	クリスマス大会 大阪商業大学生、花西リズムサークル
	2月	郷土の歴史講座 松原市社会教育委員長 西田孝司先生

<p>目 標</p>	<p><申請時></p> <p>1.高齢者の健康づくり 2.高齢者の生き甲斐づくり</p>	<p><事業実施後></p> <p>○事業活動が地域の方々に徐々に知られ理解されてきて、参加者が増加してきた。 ○次の会を楽しみにされる。</p>
<p>事 業 の 成 果 ・ 効 果</p>	<p>1.地域の高齢者が気軽に集まり楽しむ場を提供できた。 2.世帯間の交流を図ることができた。 3.健康づくりに関する講座で情報を提供できた。 4.防犯・防災に関する講座で情報を提供でき、危機管理意識を持たれた。 ○.地域の高齢者が気軽に集まり、お喋りの場を提供することで、参加された高齢者が心の交流の場として楽しまれた。</p>	
<p>今 後 の 事 業 展 開</p>	<p>○.事業活動を継続して行く為に協力員である後継者づくりを図る。 ○.地域の高齢者は、地域で支えることの大切さを広く理解されるよう、地域に呼びかける。 ○.超高齢社会に地域で、何ができ・何をすべきかスタッフに図る。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。

回覧

稲葉地区

憩いの集“やすらぎ”

少しずつ、みんなの絆づくりましょう

猛暑を吹き飛ばそう!

そうめん流し大会と
室内ゲームで楽しもう



8/22(水)

午前10:00から 本所跡公園：稲葉第一自治会館の隣
65歳以上 定員50名 参加費100円

協力： 社会福祉協議会 東大阪市 大商大生

※そうめんがなくなり次第終了、
雨天の場合は室内ゲームと喫茶コーナー

稲葉地区の高齢者を地域で支えあう
気楽な集いの場・心の交流の場

憩いの集“やすらぎ”
☎072-962-0287 林(はやし)

憩いの集“やすらぎ”とは、
稲葉地区の高齢者世帯と後援世帯の増加
に対し、地域で支えあう気楽な集いの場、
心の交流の場づくりを目的とする、非営利団
体です。

稲葉地区の高齢者世帯と後援世帯の増加
に対し、地域で支えあう気楽な集いの場、
心の交流の場づくりを目的とする、非営利団
体です。

稲葉地区の高齢者世帯と後援世帯の増加
に対し、地域で支えあう気楽な集いの場、
心の交流の場づくりを目的とする、非営利団
体です。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	高齢者ふれあいサロンと介護・認知症予防推進事業・周辺地域交流事業		
団体名	ささえ愛、わかば		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	171,000円

事業の目的・内容	目的	<p>○地域には生活困窮者層が集住しており、高齢化率、単身高齢者が市内平均より突出している。昭和40年代に建設された住宅が大半であり、階段の昇降が困難なため家に閉じこもって外出頻度が少なく「孤立」している高齢者が多かったこと。</p> <p>○住民への聞き取り調査(459世帯)により、「困った時に頼る人がいない、相談できるところがほしい」、「認知症」、「介護」に対する不安が多く寄せられたため。</p>
	内容	<p>○高齢者の居場所づくりの開催。「介護・認知症予防推進事業」の実施。高齢者の生活上の問題に対する講座。</p> <p>○障害者作業所と連携し牛乳パック回収運動や施設の紹介や講座</p> <p>○近畿大学のサークル活動と連携した「世代間交流事業」</p> <p>○犯罪や災害時などの対応、感染症、食中毒予防講座</p> <p>○流しそうめん、クリスマス会、餅つき</p>

活動実績	<p>○実施期間：毎月第1・3木曜日</p> <p>○実施場所：東大阪市立長瀬人権文化センター料理室</p> <p>○関わった人：ボランティア5名 ○参加人数：19回664名</p> <p>○牛乳パック回収運動</p> <p>○フリータイムサロン 30年4/5 31名、7/5 29名、9/6 36名</p> <p>○介護予防・認知症予防推進事業 30年4/19 34名、6/21 38名、7/19 35名、9/20 28名、10/18 37名、11/15 30名、31年2/21 34名</p> <p>○特殊詐欺にご用心の講演とDVD鑑賞(布施警察) 5/17 36名</p> <p>○障害者作業所の紹介(就労と作成された商品の紹介) 6/7 47名</p> <p>○流しそうめん大会 8/2 34名</p> <p>○世代間交流事業(近畿大学音楽サークル)と交流 8/16 30名</p> <p>○認知症サポーター養成講座(地域包括センター) 10/4 35名</p> <p>食中毒等予防講座(西保健センター)</p> <p>○障害者作業所の製品の实演と作成(回収した牛乳パックでハガキを作成) 12/6 34名</p> <p>○クリスマス会(ビンゴ大会・地域の青年グループがクリスマスソングを披露) 12/20 37名</p> <p>○餅つき大会 31年1/17 44名</p> <p>○災害時の対応や注意について(西消防署) 31年2/7 35名</p> <p>アルファー米の实演と試食 (フードバンク大阪の寄付)</p>
------	---

目 標	<申請時> 750名の参加。介護・認知症予防推進事業 190名、障害者作業所と近畿大学生との連携事業 120名、参加者の目標を設定し閉じ困りがちな高齢者の外出を促す。	<事業実施後> 祝日などで開催できない日もあったが参加者が増えた。 新規の取り組みの障害者作業所と近畿大学の事業はこれまでに交流する機会がなかったが実際に開催したら参加者も大いに関心があり立場の違いなどを理解できた。
事業の成果・効果	○開始から4年が経過しようとする中において、地域周辺の拠点となり高齢者の孤立や孤独の解消。「つぶやき」「困りごと」「悩み」などが相談できる「居場所＝サロン」になっている。 ○新規事業として「障害者作業所」「近畿大学音楽サークルの学生さん」との取り組みを実施し、普段は関わらない同士の世代間交流が出来たため、お互いの立場やより理解しあえる事が出来た。 ○高齢者が抱えている生活の不安を払拭するために講座を開催しより一層住みやすい地域づくりが出来た。 ○牛乳パック回収運動やフードバンク大阪についての講座を実施することにより資源と取り組みの大事さを理解出来た。	
今後の事業展開	○事業を実施するにおいて継続をするもの、社会の変化で新たに取り入れていくものを状況に応じて追及していく。 ○地域周辺には地域財産(障害者作業所)(児童館)(隣保館)(近畿大学)や他にもたくさんあり、連携した取り組みを今後もすすめる。 ○助成金のない時代に向けて、参加者の増加や営業努力を実施していく。 ○参加者のアンケートを実施しサロンの資質向上に繋げていく。	

*活動内容がわかる写真を添付してください



介護予防・認知症予防推進事業



近畿大学音楽サークルと交流



牛乳パックからハガキを作成



防災の時の話、水消火器を体験

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	みんなのたまり場「かどやのおしゃべりサロン」		
団体名	特定非営利活動法人生きがい事業団かどや		
助成区分	事業チャレンジ 部門	助成金額	126,000円

事業の目的・内容	目的	引きこもりがちな高齢入居者の居場所づくりと、認知症予防や認知症当事者、その家族を地域で支え合う体制づくりを行う。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 気軽に集える居場所づくり ② 認知症問題等に対する研修及び啓発 ③ 課題を抱えた人への相談及び支援 ④ 地域ネットワークづくり

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 運営委員会の立ち上げ・会議（隔月） ② 地域住民への呼びかけ（チラシ等配布） ③ ミニ講座の開催（5月から3月までの11回） ④ 参加者からの相談（毎回）
------	--

目 標	<申請時> 高齢者を中心に一人で引きこもりがちな中高齢者の呼びかけ。 165名（15人×11回）	<事業実施後> 10回の講座を開講して、高齢者を中心とした参加人数239名。 （2019年2月28日現在） 但し、残り1回の開催は3月13日に開催。
事 業 の 成 果 ・ 効 果	本事業趣旨に賛同した元気な高齢者が継続的に多数、参加があり、それぞれ各講座を受けながら楽しく過ごしていました。特に「詐欺防止」講座や「健康トライ体操」講座、「料理」講座では現役警官からの鬼気迫った話やみんな楽しく体を動かし、包丁を使わずに作った料理など参加者全員が楽しみました。 また福祉関係団体や友好団体で構成した運営委員会を立ち上げて、様々な課題を共有し、解決する道筋ができました。	
今 後 の 事 業 展 開	今後の事業運営については、ボランティア登録を行って頂き、参加者からリーダーを育成していきます。また法人の会員登録にもつなげ、会費増収を図っていきます。さらに、公的助成金制度の活用だけではなく、民間の助成金制度を活用して効率的な財政運営を図っていきます。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	このいけ憩いの家		
団体名	このいけ憩いの家		
助成区分	まちづくりファンド部門	助成金額	2,420,000円

事業の目的・内容	目的	地域住民どうしの交流の場が少なくなった現在 地域が元気になる 活性化取組みが重要である 活性化事業から交流が図れば「まちづくり」に 対して一緒に考えることが出来 地域の文化が守られる
	内容	気軽に集まれて 話しや休憩ができる居場所を実現 する為 だんじり小屋空スペースを改装し 憩いの家を 拠点として地域の方々 地域の各団体のコミュニティの場と して運営する

活動実績	1) 12月下旬 だんじり小屋改装 憩の家完成・内覧会実施 2) 平成31年1月18日 憩の家オープン・事前ポスターと チラシ配布 3) 具体的取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・運営方法 週2日(月曜・金曜) 8:00~16:00 ・1月18日(金)~2月25日 運営日11日間 ・運営利用者内訳 <table border="1" style="margin-left: 20px; width: 80%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">地域の方々</td> <td style="padding: 2px;">おしゃべりの場</td> <td style="padding: 2px; text-align: right;">9名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">地域の団体</td> <td style="padding: 2px;">休憩・打合せの場</td> <td style="padding: 2px; text-align: right;">11名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 2px;">(校区青パト・自治会役員)</td> <td style="padding: 2px; text-align: right;">合計20名</td> </tr> </table> 	地域の方々	おしゃべりの場	9名	地域の団体	休憩・打合せの場	11名	(校区青パト・自治会役員)		合計20名
地域の方々	おしゃべりの場	9名								
地域の団体	休憩・打合せの場	11名								
(校区青パト・自治会役員)		合計20名								

目 標	<p><申請時> 憩いの家・拠点づくり (だんじり小屋空間改装活用)</p>	<p><事業実施後> 集まれる居場所・憩いの家 完成利用開始</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>1) 気軽に集れる居場所・拠点づくり憩いの家完成 2) 地域の方々 地域の団体に知って頂き 活用してもらって少しは「まちづくり」の取り組みに貢献できた 3) 地域の「まちづくり」の先輩 子供食堂と共に何か まちの変改・活性化が図れた</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>1) 憩いの家活用度合を高める為 1年間は周知活動に 徹底したい (休息の場・情報交換・打合せの場) 2) 活用の方々のご意見を聞き 確認して「よろず」相談会等 実施検討 3) 運営の為 多くの協力者を募り 管理は地域団体と共有したい</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ふれあい早朝健康ダンス		
団体名	K-mop		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	130000 円

事業の目的・内容	目的	子供達と高齢者がダンスを通じて交流できる場を作り、子供達の運動能力の発達・高齢者の健康増進を目的とする
	内容	春休み、夏休み、冬休みの早朝に三ノ瀬公園、八戸ノ里公園、御厨公園にて無料の簡単な健康ダンスを実施します。 お子様から高齢者の方までどなたでもご参加いただけます。

活動実績	<p>2018年の冬で第8回目を数えました。季節にもよりますが回を重ねるごとに参加人数も増え、目標には届きませんでした。最多で1日65名もの方に参加していただきました。</p> <p>毎回参加されている方は参加者同士で顔見知りになったり、偶然この『ふれあい早朝健康ダンス』で久しぶりの再会をしたり交流の場になってくれています。</p> <p>3月末の春休みにも第9回目を実施予定です。さらに参加人数を増やしていきたいと思っております。</p>
------	---

目 標	< 申請時 > 1日 70名以上の参加（3か所）	< 事業実施後 > 1日 65人
事 業 の 成 果 ・ 効 果	子ども達が夏休みや冬休みに早起きをし、長期休みであっても生活リズムを崩さずに日常生活を送れるということが、結果的に健康につながると考えます。また、何よりも子供達自身が自主的に早起きをしたこと、楽しんでダンスをしているという事が成果として挙げられると思っています。 御厨公園では特に高齢者の方に多く集まって頂き、子供達とのふれあいの場を作ることができました。	
今 後 の 事 業 展 開	ボランティアでふれあい早朝ダンスの実施者を募り、実施する公園を増やし、より多くの人たちの健康増進を図りたい。	

*活動内容がわかる写真を添付してください



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	みんなで歌おう！ラグビーワールドカップテーマ曲「World in Union」		
団体名	こども英語推進委員会		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	100,000 円

事業の目的・内容	目的	誰もが参加できる「歌」を通じて地域を盛り上げる場をつくり、「英語の歌」を通して英語への意識を高めることが目的である。
	内容	ラグビーワールドカップテーマ曲の「World in Union」を300人で歌う。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一日曜日に 東大阪市内リージョンセンター、自治会館等で練習 ・ホームページ、SNS、チラシ（全リージョンセンター、東大阪市内の全中学校、高校へポスター配布、東大阪市内店舗でチラシの掲示。 ・2018年5/13（日）東大阪市民ふれあいまつりステージ出演 ・2018年10/4（木）地域の高齢者の集まりにてボランティア訪問（英田公民分館分室にて） ・2018年11/24（土）花園百円笑店街にてオープニングステージ出演 ・2019年3/1時点の参加者数102名
------	---

目 標	<p><申請時> 参加者数 300 名</p>	<p><事業実施後> 参加者数 102 名</p>
事 業 の 成 果 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の声から「歌を通じて街に貢献できるなんて嬉しい！」と街を盛り上げる意識がみられた。 ・参加者の声から「英語で歌うことで、英語への垣根が払拭された」と意識の広がりがみられた。 ・自治会館等で練習するにあたり地域の方々とのふれあいがありコミュニケーションの輪が広がった。 ・シニアと小学生など、年齢・職業などをこえたコミュニティーづくりができた。 	
今 後 の 事 業 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年 5/12（日）東大阪市民ふれあい祭り出演 ・2019年 9/8（日）東大阪市文化創造館 小ホールにて 300 人コンサートの実施。歌のワークショップとコンサートを予定。学生サークルや他コーラス団体、音楽団など出演予定 ・毎月第一日曜日ワークショップ開催（河内花園 市場自治会館にて） 	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



東大阪市民ふれあい祭り



ボランティア訪問



ワークショップの様子

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	2018年東大阪中・高校生演劇ワークショップ		
団体名	東大阪中・高校生演劇ワークショップ実行委員会		
助成区分	チャレンジ部門	助成金額	229,518円

事業の目的・内容	目的	<p>○東大阪の中学校・高校に在籍する、あるいは在住する中学生・高校生で演劇に興味を持つ生徒の演劇のスキルを高める。</p> <p>○演劇の基礎を学び、最終日1つの劇を上演することで達成感・連帯感を体験する。</p> <p>○この事業を通じ、東大阪の中学校・高校における演劇活動を盛んにする。</p>
	内容	<p>6日間の日程で行い。午前は講義や実技、2018年は近大舞台芸術専攻の盛加代子教授からインプロゲームや発声・朗読の実技の指導を受けた。午後は最終日の公演に向けて劇の練習、ダンス・ブラスバンド・照明音響の生徒も、それぞれ専門家の指導を受ける。</p>

活動実績	<p>キャスト参加32名 スタッフ4名参加 ダンス14名 ブラスバンド3校26名 観客200名 参加校は中学校7校 高校10校</p> <p>生徒が演劇ワークショップでやりたいと思う劇のプレゼンテーションを行い、その中で取り上げられた題材を教員が脚本化した「石橋に願いを」の劇を発表公演で、ダンス・ブラスバンド・俳優のコラボで発表した。</p> <p>観客の方は次のような感想を出されています。「短期間でこれだけの演技をこなせる！ってやっぱり意識高い人たちが集まってきているんだな！と感心しました。卒業生、在校生もたくさんおり、キョロキョロしましたが、とても楽しく見させてもらいました。この経験がまた、それぞれの生活に戻って生かしていけるといいですね。名演技の数々ありがとうございました。楽しかったです」</p>
------	--

目 標	<p><申請時></p> <p>○東大阪の中学校・高校に在籍する、あるいは在住する中学生・高校生で演劇に興味を持つ生徒の演劇のスキルを高める。</p> <p>○演劇の基礎を学び、最終日1つの劇を上演することで達成感・連帯感を体験する。</p> <p>○この事業を通じ、東大阪の中学校・高校における演劇活動を盛んにする。</p>	<p><事業実施後></p> <p>○地域の高齢者施設への案内を広げ、高齢者と中学生や高校生との交流、地域街づくりに貢献する。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>○東大阪市内に40ほどある中学校・高校の内17校から参加があった。過去最高の参加校である。また生徒の参加にともない、それぞれの学校の校長さんや教頭さん、担任の先生などが発表公演の鑑賞に訪れ、本事業を理解していただくうえで大きな効果があった。</p> <p>○高齢者施設に対し、鑑賞していただくよう案内を差上げた所、加納にある高齢者施設から6人が参加され、「中学生や高校生の活刺とした演技に元気をもらった」の感想があった。</p> <p>○以前ワークショップに参加した青年が地元の劇団に参加するなど演劇のすそ野を広げるのに貢献している。DVDや文集を各校に配布して回った時演劇ワークショップに参加した生徒が文化祭の学年劇で活躍との声も聞いた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>○参加校を増やし、名実共に東大阪の演劇ワークショップになるよう広報を強める。</p> <p>○東大阪の全ての公共施設に発表公演のチラシを配布してもらい。発表公演の観客も増やしていきたい。</p> <p>○東大阪の企業に1万円の協賛金をお願いし、募集のチラシや発表公演のチラシに広告やロゴを入れ、補助金に頼らず事業を運営できるように努力していきたい。</p> <p>○2018年は東大阪支援学校からキャストへの参加があった。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成 30 年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	小阪中校区まつり		
団体名	小阪中校区まつり実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	500,000 円

事業の目的・内容	目的	このまつりは、小阪中学校校区（小阪、八戸ノ里地区）の住民相互の出会いと楽しみを提供し、“地域愛”を育むことが最大の目的です。 今回も校区内にある施設である、東大阪アリーナを借用し、地元企業とコラボしながら楽しい一日を演出。
	内容	本まつりの前身は「教育協議会のおまつり」（発表会）のため、まつりは 2 部制とする。 <1 部>校区の幼稚園児、小学生、中学生のダンス、斉唱、演奏、教職員によるステージ発表 <2 部>ダンス甲子園、もぐもぐ横丁、フリーマーケット等

活動実績	平成 12 年、実行委員会として発足。「小阪中校区まつり」の企画、運営は 6 回目を迎えます。実行委員は小阪、八戸ノ里地区にお住まいの 40 名ですが、その他にも近畿大学のボランティアスタッフや当日お手伝いの PTA スタッフ約 40 名、企業、行政の PR スタッフを含めると 200 名を超える大勢の人たちで運営しました。
	平成 25 年 10 月 26 日「第 1 回小阪中校区まつり」開催
	平成 26 年 10 月 25 日「第 2 回小阪中校区まつり」開催
	平成 27 年 9 月 23 日「第 3 回小阪中校区まつり」開催
	開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約 15000 名
	平成 28 年 10 月 23 日「第 4 回小阪中校区まつり」開催
	開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約 17000 名
	平成 29 年 10 月 1 日「第 5 回小阪中校区まつり」開催
	開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約 20000 名
	通年、6～7 回の実行委員会、各委員会は随時開催（企画委員会・8 回） スタッフ間の打ち合わせも随時

目 標	<申請時> 来場者数 20,000名	<事業実施後> 来場者数 21,000名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>今回で6回目の開催という事で、スタッフ間の連携や事業運営自体もスムーズに進行できるようになりました。これも小阪中学校区を中心とする学校園、PTA、地域団体、地元企業、大学など幅広い年齢層の方々が一つとなって、企画から運営まで様々な議論を重ねてきた結果であると実感しております。</p> <p>今回は屋外の飲食、ステージの場所をより広い場所に変更した為、例年以上に出店数、ステージ参加者、を増やすことができ、たくさんの来場者で賑わうことができました。</p> <p>”地域愛”の向上を図るため、「竹細工教室」など子どもと地域のシニア世代との交流、そして今回は「宮本順三記念館豆玩舎 ZUNZO」さん、ボーイスカウトさんにも参加していただき、より一層の地域に密着したまつりにすることができました。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>今回で6回目の開催、そして地域の方たちにもかなり浸透してきたこともあり、参加したいという団体が増えてきました。ただ規模が大きくなることでスタッフの人数、場所の確保、時間の制限、また運営資金（主に協賛金）の調達など、一度全体的なプログラムの見直しを検討する余地があります。</p> <p>今後は、更に”地域愛”の取組に力を入れていくという意味では、引き続き子どもから大人まで地域の参加してくださる団体の呼びかけ、他地域との交流、そしていろいろな企画も考えて参加する皆さんが楽しんでいただける事業を作り出していくことが望ましいと考えております。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	空き家を活用した地域や学生が高齢者を支える見守り事業		
団体名	ながせ出張所		
助成区分	まちづくりファンド部門	助成金額	4,000,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>昨年度は、共同実施した NPO 法人国際ボランティア学生協会東大阪クラブが中心となり行なった、地域住民や学生を対象とした学生と高齢者の多世代共生型シェアハウスに対する意識調査から高齢者を市民や学生が見守る仕組みや活動の必要性や多世代共生型シェアハウスに価値を見出していることがわかった、一方、具体的なイメージがしにくいことや、体験の必要性が指摘、一組織ではなくマッチングを目的とした分野横断型組織の必要性などの問題があった。</p> <p>本事業ではこれらの課題を解決することを目的として事業を行う。</p>
	内容	<p>本事業では連携協力可能な具体的なエリアを設定し、空き家権利者と利用者のニーズ把握及びマッチングを行い、空き家をリノベーションした共生型ステップハウスを実験住宅として整備し、実践を通じたマッチングシステムの構築を目指す。〈主に学生及び高齢者のシェアハウスにおいて、他団体と連携した高齢者の見守り事業を検証する。〉また住人だけでなく、学生と高齢者、養護老人ホームの関係をつくる地域の見守りの拠点として整備する。</p>

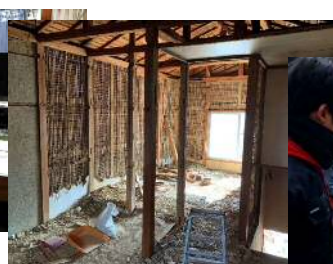
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者と学生による共生型シェアハウス運用に向けた、共生体験 (10/8～10/9 及び 12/3～12/8 の二回実施) ・ サポートを行う個人や団体の発掘を目的とした現地見学や事業紹介を行うイベントの開催(3/6 開催予定) <p>第 13 回オープンナガヤスクール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近畿大学の教員や「あきばこ家」との協働で行った改修工事の際に使用する土レンガの施工ワークショップの実施 (2/10～2/11)
------	---

目 標	<p><申請時></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じたあきばこ家・養護老人ホーム以外のサポートを行う個人及び団体の発掘と連携体制の構築（マッチングシステムの構築） ・共生型シェアハウス及び地域住民や学生を含めた見守りを行うサロン事業の持続的な運営 ・本事業を空き家・高齢者問題の解決を目指した空き家ストック活用モデルとする 	<p><事業実施後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と学生による共生型シェアハウス運用に向けた、共生体験（10/8～10/9 及び 12/3～12/8 の二回実施） ・サポートを行う個人や団体の発掘を目的とした現地見学や事業紹介を行うイベントの開催(3/6 開催予定) <p>第 13 回オープンナガヤスクール</p>
事業の成果 効果	<ul style="list-style-type: none"> ・今回協力団体として活動を行っている「あきばこ家」との連携により近畿大学の学生に対して広報や事業の説明を行ったため、高齢者と学生による共生型シェアハウスの認知度や関心が向上し、結果的に入居を希望する学生を 2 名発掘することができた。 ・3/6 開催の第 13 回オープンナガヤスクールを始めとしたイベントやレクチャーなどで事業内容の発信を行った結果、学生のみならず様々な世代が事業に関心をもっていただけるようになった。 	
今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や学生などの多世代が共生できる住まいへと改修し、東大阪市の空き家対策課との連携から高齢者の引きこもりなどの様々な高齢者問題を解決できる地域のストックを活用した市内に普及する新たな活用モデルとすると同時に市内の空き家自体の見守り事業も行うことを予定している。 ・事業全体を通して高齢者問題に対し、地域や学生にも問題意識を持ち地域で高齢者を支える事業へと参画してもらえる団体や個人を発掘したいと考えている。 ・事業対象を住人だけに還元するのではなく一階部分を周辺地域の高齢者も支援、見守りを行うサロンとしても活用する為、開放し学生や養護老人ホームが地域の高齢者を見守る拠点として運用を行う 	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



学生と高齢者の共生体験の様子



事業対象の工事の様子(1/19 現在)



学生との施工ワークショップの様子

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ポイ捨てボクメツプロジェクト		
団体名	ポイ捨てボクメツ作戦実行委員会		
助成区分	スタートアップ部門	助成金額	155,000 円

事業の目的・内容	目的	東大阪市域のごみのポイ捨て（散乱ごみ）の削減と啓発活動を通じて、地域の大人、子どもたち、そして企業や行政に関わる方々と協働し、「自分のまちは自分の家と同じ」を合言葉に、自分たちが暮らすまちへの愛着をより深めるため。
	内容	対象地域への愛着と啓発を兼ね子どもも大人も地域ぐるみで取り組める活動「花園桜通りをキレイに～みちのえほん」（看板作成と清掃）を継続実施。また、地域の環境イベントへのワークショップ組込み、「散乱ごみ見学ミニツアー」も実施する。

活動実績	H30/5/27 東大阪環境フェスティバル (主催：環境フェスティバル実行委員会) で、 不要な絵の具の回収および実績写真展示
	H. 30/9/16 第2回散乱ごみ見学ミニツアー実施
	H. 30/2/23・24 イコーラムフェスタで不要品を利用した楽器作り実施
	H. 30/2～3 小学校（4校）での看板ワークショップ
	H. 31/3/17 花園さくら通りをキレイに「みちのえほん 3」を実施予定 KINVUSA（学生ボランティア）と共催

目 標	<申請時> ① 実施場所の散乱ごみの清掃及びポイ捨て防止看板の設置イベント「みちのえほん」の実施。実施回数：1回、参加40名 ② 「散乱ごみ見学ミニツアー」（東花園ラグビー場周辺道路）1回、参加10名 ③ 学校園の清掃活動時、共催での看板づくりワークショップを計画、次年度実施	<事業実施後> ① 実施場所の散乱ごみの清掃及びポイ捨て防止看板の設置イベント「みちのえほん」の3/17実施予定 ② 「散乱ごみ見学ミニツアー」（東花園ラグビー場周辺道路）1回、参加6名 ③ 学校園の清掃活動時、共催での看板づくりワークショップを計画
事業の成果・効果	①3/17に実施予定ですが、看板作成時に各小学校を訪問し、趣旨説明を児童にもさせてもらってから看板作成をしてもらっています。 ②トラックターミナル周辺が一番汚れています。10年以上地域や行政が取り組んできて効果が薄いことから、トラックドライバーや運輸事業者そのものの取り組みがあまりなされていないことが分かりました。 ③今回、教育委員会の後援名義も頂き、より学校園と児童に主旨を理解いただけたと思います。また、環境フェスティバル、イコーラムフェスタの参加などは、地域の方々に実行委員会の存在を少しでも告知できたと思います。	
今後の事業展開	東大阪市の意見交換会から5年、そのうちスタートアップ部門での事業実施を3年を経過し、学校園、学生ボランティア団体との協力が実現し、一定の成果を得ました。今後、自治会の壁を超え、外部企業などの協力を得るためには、メンバーと活動時間の確保、自主財源の確保、広報の強化が必要となりますので、もう一度実行委員会の在り方を見直して、無理のない継続の方法を模索していきます。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



小学校での
看板づくり



環境フェスティバルでの展示



イコーラムフェスタ

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	HUG（避難所運営体験ゲーム）を活用した減災に強い地域づくり		
団体名	災害時のトイレ・避難所問題等を考える会		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	150,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>災害時に地域で暮らす「災害時要配慮者」「避難行動要支援者」等（高齢者・認知症者・障がい者児・妊婦・疾病患者等）が先ずは生き延び（自助）、避難所等へ安全に避難すること（近所・共助）ができ、避難生活が健康で文化的に過ごせる為の知識や課題・スキルを学ぶ。『その時』と『ふだん』は繋がっており、地域で日頃から顔の見える関係づくり、繋がりづくりは大切であり、その為の地域コミュニティを育むことをねらいとする。</p>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、避難場所（主に小・中学校）で地域の色々な方々が一気に押し寄せる。それぞれ個々の実情や特性を踏まえ、適切な避難誘導や情報処理を学ぶ為のHUG（避難所運営体験ゲーム）を行い、多様な視点や多くの気づきを学ぶ。 ・災害時のトイレ問題や自主防災活動について学ぶ講演会を開催。

活動実績	<ol style="list-style-type: none"> 1. HUG 体験を行うインストラクター養成 <ul style="list-style-type: none"> ・ H30 年 7 月 12 日 ノーマルライフ（デイルーム） 24 名 2. HUG 体験を広める <ul style="list-style-type: none"> ・ H30 年 10 月 12 日 地域包括支援センター（イースタンビラ） 35 名 ・ H31 年 2 月 9 日 イコーラム学習室 12 名 3. HUG 体験（出前体験）参加の案内 <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉関係者、自治会、民生委員、小・中学校、大学等関係者 NPO、市民グループ等に HUG 体験（出前講座）等を案内 4. 行政（危機管理室、他）、社会福祉協議会、関係団体等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ H31 年 1 月 17 日 市役所 1F「防災パネル展」参加と交流（行政、他） ・ 2 月 14 日 東体育館「防災イベント」参加と交流（社会福祉協議会、他） ・ 2 月 22 日 新大阪 BCP セミナー ・ 3 月 5 日 東成区:災害時トイレ講演 5. 障害者施設（事業所）にて講演会（防災とトイレ）を開催 2 月 2 日 6. イベント「知る・学ぶ・備える 防災とトイレ」講演とシンポジウム <ul style="list-style-type: none"> ・ H31 年 3 月 14 日 イコーラム研修室 1・2 約 50 人（参加予定数） ・ 地域自主防災活動と災害時避難行動要支援者等の課題も提起する。
------	--

目 標	<p>< 申請時 > HUG体験会を計10回開催</p>	<p>< 事業実施後 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HUG体験会の開催3回 ・ 講演依頼（障がい者施設等） ・ 防災とトイレに関する講演会等開催
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>HUG体験を通じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の避難所で起きうる状況の理解と適切な対応を学ぶことができた。 ・ 地域には介護の必要な高齢者や様々な障がいのある方、妊婦、外国の方（観光客も）が居て、それぞれの特性やニーズ等を知ることが必要である。 ・ 自治会、学校、医療・介護・福祉関係者・NPO・市議員など幅広い分野の方々の参加が得られ、それぞれの視点や意見の交流により多くの気づきを得られた。 	
今 後 の 事 業 展 開	<ol style="list-style-type: none"> 1. HUGは手段（ツール）であるが殆ど知られていない為、入り口が狭い。それで受け皿を広めるべく、3/14に講演とシンポジウムを企画開催し、災害時のトイレ問題と地区防災計画（減災に強いまちづくり）の2つのテーマを掲げ発信した。 2. 今後は、3/14でフォーカスされた、地域の自主防災活動の中の「災害時要配慮者」や「避難行動要支援者」にスポットを当てる取組みと発災時の3日間をトイレ問題も含め初動対応する「自助」活動など連続セミナー等を開催していきたい。例えば、①発災時の初期対応とトイレ対策、②災害時の避難行動要支援者について、③自主防災活動と地区防災計画づくり、④高齢者・障がい者等社会福祉事業者等のBCP（事業継続計画）、など。 	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	長屋を利用した交流拠点の創出		
団体名	建築研究会あきばこ家		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	200,000円

事業の目的・内容	目的	近畿大学建築学部の学生中心に、近大通りにあるリノベーションされた長屋住宅のイベントスペースを利用し地域と近畿大学の学生、周辺地域の小学生との交流拠点を創出し、東大阪市の地域交流の発展へと貢献する。
	内容	拠点となる長屋のイベントスペースを学生運営の元、イベントの開催や地域の方々に貸し出しを行うことで地域の交流拠点事業を発展させる。具体的には学生主体のイベントに子供たちや地域の方々を呼び込み、世代間交流を行う。また、地域の自治会や商店会に打診を行い、回覧板等で利用の募集を行う。

5/19 「春のわくわくフェスタ」参加者:大人15人,子供20人 地域サロン定期利用者との初の合同イベント。
5/20 「ウォロ WS」参加者:大人10名 雑誌「ウォロ」のWSとしてあきばこ家のまちあるきを開催。
7/11～「地域サロン会議」 毎月1か月定期的に開催。地域サロン利用者同士の交流と、普段のご利用の中で感じた意見などを交換し、地域サロンの質の向上を図る。
8/2～4「寺子屋イベント」参加者:大人3人,子供16人(全日累計) 子供たちの宿題をお手伝いし、「子供の居場所」として認知してもらう。
8/25 「流しそうめん&地域サロン自由開放」参加者:20人 毎月隔週でサロンを開放し「地域の居場所」として認知度向上のための「自由開放」のプレイベントとして開催。
9/15 「秋のわくわくフェスタ」参加者:大人21人,子供59人 地域サロン定期利用者との合同イベント第二弾。
11/11,12 「オープンナガヤ大阪2018」参加者:42人(全日累計) 大阪市立大学主催のイベントで地域サロンを主に活動周知を図る。
12/16 「わくわくフェスタ クリスマス会」参加者:60人 地域サロン定期利用者との合同イベント第三弾。あきばこ家は三角帽子づくりのWSを実施。協同でサロン利用者、近畿大学鉄道研究会が参加。
1/12 「餅つきイベント」参加者:50人

目 標	<申請時> イベントの来場者 年 200 人 (一回のイベントに 40 人) イベントスペースの貸出 月 120 時間	<事業実施後> イベントの来場者 計 316 人 (1回のイベントに平均人 45 人) イベントスペースの貸出 月平均 82 時間
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>定期的なイベント開催や広報を積極的に行ったことでイベント来場者数も“目標”を上回り、活動目的としている「地域の活動拠点の場」という認識をより深めてもらうことができた。</p> <p>イベントでは、従来のあきばこ家が主催となるものだけでなく、サロン利用者と共同で開催することによって利用者同士の繋がりも構築できた。</p> <p>イベントスペースの貸出では、目標達成には届かなかったが新規利用をきっかけに、3組の団体が定期利用者となった。</p> <p>また、メディアからも注目をいただき、雑誌ウォロではながせのながやをメインに長瀬付近でのまちあるきを行い、東大阪市内に関わらず市外の方にも参加いただき幅広く活動を広報することができた</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>利用者同士の繋がりをより広げていくとともに、新規利用者のさらなる発掘を目指す。また新規利用者から定期利用者へとつなげていき、イベントやサロン会議などを通して、「地域の活動拠点の場」としての活動や意識を地域全体で拡大していくことを目標とする。</p> <p>5月にもサロン定期利用者との合同イベントを開催予定。以前から参加していただいていた団体に加えて、2月から定期利用となった団体にも参加していただく予定。</p>	



春のわくわくフェスタ



秋のわくわくフェスタ



地域サロン会議



雑誌ウォロ WS

平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	梶無神社ふれあいやさい市開催事業		
団体名	梶無神社ふれあいやさい市実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	130,000 円

事業の目的・内容	目的	地域の神社として、地域に開かれた農産物直売市(マルシェ)の開催による地産地消と食の安全の推進、そして独居老人を含む住民交流の場の提供と、地域の歴史・文化等のミニ講座を開催して地域住民の地域への愛着を深め、お互いに助け合う安全安心なまちづくりを進める。
	内容	地域に根差す神社として、地元の米・野菜・果物・花をはじめとして甘酒・ポン酢等の作り手が出店しての産直マルシェを定期開催し、生産者と消費者の交流、顔が見える食の安全への寄与、地元商店の活性化、住民同士の交流、地域の歴史・文化の共有・紹介など、マルシェを通じて周辺地域を盛り上げる。

活動実績	<p>梶無神社ふれあいやさい市は、梶無神社の境内で毎月第三日曜日の 4月15日、5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月17日(予定)の計12回実施した。出店数は、各回7店~12店で、ミニ歴史講座は12回開催した。住民の参加者数は、各回300名~500名、延べ4,900名(見込み)。広報活動は、協力団体の地域支援包括センターなるかわ苑が、毎月縄手南校区の各自治会掲示板にポスターを掲示し、各町会に広報紙を回覧して頂いた。当会でも各自治会・子供会・老人会等の立看板約10基、及び個人宅・商店・銀行等に開催ポスターを毎月掲示し、のぼりをたてて、広報に努め、毎日新聞(7月15日朝刊)に「野菜市 地元で活気よう開催 東大阪・梶無神社」として写真入りで掲載され、東大阪商工月報6月号(No.794)にも掲載された。また縄手南小学校に於ける、青年団主催のふれあい祭り及び縄手南校区のふれあい盆踊りにも、やさい市の出店者が出店参加して住民交流を進めた。</p>
------	--

目 標	<申請時> 参加人数 4800 人	<事業実施後> 参加人数 4900 人
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>緑豊かな神社境内において産直マルシェを毎月開催することにより、延4,900名の地域住民の参加があった。参加者は、新鮮で顔が見える地元の農産物を購入でき、食に対する安心感が高まり、地産地消の促進が図れた。また生産者と消費者の会話も推し進めることができ、顔が見える食の安全への寄与ができた。ミニ歴史講座では市立郷土博物館との連携によって参加者に地域の歴史文化の発信ができ、回を重ねるやさい市には、高齢者・独居老人の参加も増え、大道芸を楽しむ人や健康相談の待ち時間や会場での会話が弾んだことによって住民同士のふれあい・連帯感が強まり、お互いに助け合う安全安心なまちづくりに寄与できた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>ふれあいやさい市を今後も継続的に毎月開催することにより、食に対する安心感を推し進め、地産地消の促進を図りたい。ふれあいやさい市での自治会等の連携を強めて、より多くの住民の参加を図って、住民同士のふれあいを促進し、お互いに助け合うまちづくりを進めたい。引き続き市立郷土博物館との連携を図り、やさい市での“出前講座”によって、住民への地域の歴史文化の発信をより強く推し進めると共に、伝統芸能・南京玉すだれ、皿まわし、筑波山名物・ガマの油売り等の大道芸等の開催により、やさい市をより楽しめる場として盛り上げていきたい。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	NEW 鴻池ファミリーフェスティバル		
団体名	NEW 鴻池ファミリーフェスティバル実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	137,000 円

事業の目的・内容	目的	子育て・教育・街づくり・仲間づくりを考える人達が集い交流する場、家族みんなで楽しい時間を過ごす場をと、住民参加のイベント（フェスティバル）を開催する。
	内容	中央舞台：地域の子どもたち、保護者、住民、及び地域に勤務する人達による歌やダンス、太鼓、バンド演奏など 子どもコーナー：移動動物園、手づくり遊びコーナー 地域文庫による緑陰図書コーナーなど 模擬店、バザーを同時開催

活動実績	<p>* 実行委員会の開催 ①7/25②8/29③9/26④11/21</p> <p>* 参加者説明会 10/26</p> <p>* フェスティバル前日準備 11/10（土）</p> <p>* フェスティバル開催 11/11（日）</p> <p>* 参加者募集チラシ発行（同時に、広告掲載・協賛金募集）</p> <p>* プログラム発行（会場配置図・舞台プログラム・広告掲載）</p>
------	--

目 標	<p>＜申請時＞</p> <p>参加者（舞台出演・模擬店及び地元商店からの臨時出店）を増やしたい。</p> <p>子どものための遊びや体験コーナーを充実させたい。</p>	<p>＜事業実施後＞</p> <p>舞台出演者と地元商店の臨時出店は、新しく参加してもらえるところが出てきた。人気の移動動物園も心配なく呼ぶことができ、ワークショップや手作り遊びのコーナーも増やすことができた。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>地元の各種団体・事業所・商店などに広く呼びかけることに力を入れ、参加や財政支援（広告掲載）など増やすことができた。市・市教委の後援名義使用は以前から許可を得ていたが、助成金事業であることが功を奏したと思われる。天候にも恵まれ、例年を上回る参加者、来場者で賑わい、事故もなく成功裏に開催できた。地域の方からも次回開催を期待する声が寄せられた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>開催時期を例年（11月最終の日曜）より少し早め、11月11日（第2日曜）としたが、オンシーズンの為、移動動物園の経費が例年の2倍近くになった。地元の各種行事（学校行事含む）との兼ね合いもあるが、開催時期は流動的。開催を期待する声（子ども達、特に）があるので、例年通りとりくみたい。テントや机・イス他、参加者の要望が出ているが、購入するための財源及び保管場所が課題である。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「かなちゃんコミュニティハウス」整備事業		
団体名	東大阪市金岡商店会		
助成区分	まちづくりファンド部門	助成金額	4,146,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>金岡商店街は、以前は多くの人が行き交わう交流の場であったが、近年は商店街の店舗の後継者不足や、利用者の減少によりシャッター店舗も増えていった。</p> <p>商店街通りは弥刀駅へのアクセス路や通学、通園路であり、通過交通は一定量あることから、人が滞留するしかけづくりにより、コミュニティの再生及び地域活性化を図るもの。</p>
	内容	<p>商店街の空き店舗を、地域で暮らすあらゆる世代が集え、交流できるような場所として行くことで、地域・商店会双方の活性化を図るとともに、世代間交流やコミュニティ活性化の拠点として再整備するもの。</p>

活動実績	<p>○毎年の主な取り組み</p> <p>①100 円笑店街 毎年 5 月第 4 土曜日 午前 10 時から午後 3 時まで</p> <p>②商店の夜店（かなちゃん夜市）7 月第 4 日曜 午後 5 時から 8 時まで</p> <p>○今年度の主な取り組み</p> <p>①H30 年 9 月 落語会（於：かなちゃんホール） 50 人参加</p> <p>②H30 年 10 月 カラオケ大会（於：かなちゃんホール） 100 人参加</p> <p>○かなちゃんコミュニティハウス整備事業</p> <p>①H30. 8～10 月 商店会による企画会議（事務所の利活用について等）</p> <p>②H30. 11 自治連合との調整、まちづくり活動助成金の申請</p> <p>③H30. 12 業者契約、着工（工期：H31. 1～31. 2）</p> <p>④H31. 2 末工事完了</p> <p>⑤H31. 3. 5 かなちゃんコミュニティハウス お披露目（認知度向上のため、ガラガラ抽選会を開催）</p>
------	---

目 標	<申請時> 多世代の交流、地域と地域経済の活性化として、「オープンスペース利用」「週1回以上のイベント開催」	<事業実施後> 同左
事業の成果・効果	<p>①商店会の会員からは、整備されたかなちゃんコミュニティハウスの仕上がりに、予想以上との声が寄せられ、施設を活用した取り組みのアイデアを更に考えて行こうという気運も盛り上がっている。</p> <p>②かなちゃんコミュニティハウスの前を通る市民からは、興味をもって覗く人も多く、地域の人々の期待も伺われる。</p> <p>③長瀬東校区自治連合の取り組みにも活用してもらえよう呼びかけを行い、地域の取り組みの認知度向上や参加者増に向けた活用を検討していただくことになった。</p>	
今後の事業展開	<p>再整備施設は主に商店会が維持管理していくが、日々の運営に自治会や地域住民を巻き込むことで、より地域へ根付いた場としていく。</p> <p>また、費用は受益者に一定の負担を求め、安定的な運営をおこなっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が集まれる場（大学生、子育て）づくり ・子育て世代も、お年寄りも集まれる、世代交流をはぐくむ場づくり ・この場所ならではの（商店の商品やノウハウを生かす）による地域と商店の双方のメリットの創出 <p>（当面の企画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもたちを対象に、商店会と地域の方々と「地域の子どもたちとカレーを食べる会」を開催予定 ・小上がりスペースを活用した落語会を開催予定 ・その他、子どもの学習支援や地域の児童・園児の絵画展示、商店会販売物品を使った賑わいづくり(手芸教室)などを企画中 	

*活動内容がわかる写真を添付してください。

（整備前）



（整備中）



（整備後）



平成30年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	森林保全整備活動と森林整備体験講座		
団体名	東大阪フォレストクラブ		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	107,000円

事業の目的・内容	目的	<p>生駒山の自然環境をより良好な状態で、次の世代に引き継ぐため、市民及び企業ならびに行政と協働し、森林保全整備活動を行う。</p> <p>また、体験講座を実施し、広く市民に対して森林の持つ公益性等森林整備の大切さをPRする。</p>
	内容	<p>上石切町2丁目地区の放置人工森林(ヒノキなどの過密林)を適正な成立本数まで伐採し、整備・保全活動を行った。</p> <p>一般市民向けに、森林の持つ公益性に興味を持ってもらうため、NPO 日本森林ボランティア協会より講師を招き森林整備体験講座を実施した。</p>

活動実績	4月15日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	雨天中止
	5月20日(日) 森林整備活動(午後定期総会)	……………17名
	5月27日(日) 第10回東大阪市環境フェスティバル	……………6名
		PR写真展示と丸太切り体験コーナー出店(丸太切り体験者…60名)
	6月17日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………12名
	7月15日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………8名
		《8月はお休みです》
	9月16日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………12名
	10月21日(日) 森林整備活動と森林整備体験講座	……………15名
	11月11日(日) 森林整備活動(グリーンフェスタ用、丸太切り出し)	……………11名
	11月18日(日) 第4回東大阪市グリーンフェスタ	……………10名
		PR写真展示と丸太切り体験コーナー出店(丸太切り体験者…155名)
	12月16日(日) 森林整備活動(除伐、ロープワーク研修)	……………13名
平成31年		
1月21日(日) 森林整備活動(雨天中止)・午後より市ボランティア養成講座実習	……………16名	
2月17日(日) 森林整備活動・市間伐体験講座	……………29名	
3月17日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	《見込み》 ……12名	

目 標	<p><申請時></p> <p>年間 11 日の活動で、延べ参加人員 120 名を目指す。</p> <p>また、新規入会者 3 名を図る。</p>	<p><事業実施後></p> <p>本年は、延参加 145 名、新規会員 1 名で新規会員の目標は達成できなかった。更に機会あるごとに本会の PR に努め、特に若年層会員の入会を図る。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林整備体験講座の実施により、森林・林業の特徴や現状を踏まえ、森林は単に木材生産としてではなく、水源涵養や国土の保全など防災面での重要性や大きくは地球環境を守ってくれる、人類にとって大切な環境財であることを市民は勿論のこと、会員も再認識できスキルアップが図れた。 ・ 市が主催する 2 フェスティバル(5 月、11 月)に【丸太切り体験コーナー】を出店し、合計 215 名の参加者があった。また、同時に森林ボランティアの写真展示も行い、クラブの PR も行った。 ・ 本年は、雨天中止が 2 度あったにも拘らず、延べ参加者 145 名(見込み)となり、台風 21 号による倒木被害も 30 数本(0.6%)と他の地域に比べ少なかったのは、地形の関係もあるが間伐整備の成果と自負している。 ・ 林床にも日差しが届き、下草や灌木も育ち土砂止め効果が顕著になってきている。また、待望の若年層新会員 1 名を獲得できた。 	
今 後 の 事 業 展 開	<p>機会ある毎に市民に向け、森林整備の必要性を PR し、ボランティア活動に理解と協力を得ることは勿論のこと、引続き会員（特に若年の）の獲得に勤めるとともに会員相互のスキルアップを進めるため、チェーンソー等の技術取得研修にも参加できるように、資金確保もあわせて行いたい。</p> <p>また、将来的には、現在地以外でも活動できるように、組織・体制の強化を図ると共に他団体の活動にも積極的に関わって行きたい。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。

